あの協力隊は今!?

このコーナーでは、元川西町地域おこし協力隊の塗貴旭（ぬりたかあき）が任期後は何をしているのか？をお伝えします！

「2015年　久々の帰省」

2014年12月31日。いわゆる、大晦日にそれらしく帰省した。高畠から東京方面へ向かう乗客は、僕一人。あれっ？て感じ。

大宮で降りて、久々の人ごみ。みな、何かしらの用があって駅にいるのだな。川口駅で降りたらイルミネーションが！駅が明るいと歓迎された気がする。帰省者にはうれしい演出だ。

親戚との集まりで、身内の様々な情報を得た。いとこが母親になってたり、結婚したり、別居したり（？）、僕には近くて遠い、女のいとこが8人もいるのです。

山形での暮らしについて色々聞かれます。都会人の話す田舎暮らしはピントがずれたことばかり。

酒が強くなったのは山形のおかげ。親戚の中で一番、強くなった。

帰りの大宮駅まで、家族総出で見送りにきた。我が家の歴史上、初めてのことだ。30くらいの男が年に一度帰省して、またどこかに行ってしまうのだから。

家族はいつまでも家族ってこと。束の間の正月終了。

¼ JR大宮駅にて

1月号 「2015年、新年に思うこと」

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。NCVのラジオも続いています、番組HPも作ったので、お時間あれば見てください。

さて、新年を迎え、気持ちを新たに頑張ろうと思いつつ、将来どうしようかと考えることが多いです。将来なんてのは今の自分には幻想にすら思いますが…。米沢で暮らしていると、同年代の人は所帯持ちだったり、社会的地位が上だったり、何かと自分の人生は遅れていると感じてます。しかし、正月に実家へ帰り、東京の街を歩いてみれば、年齢なんて何のその！実に様々な人がいます。そういう街で暮らしていると、いつの間にか周りを気にしなくなります。1年という時間は東京も米沢も同じなのに、東京の1年は進んでいるようで同じ場所にいる感覚です。新年を迎えると、去年と同じ自分がいることに気づく街です。

学生時代を過ごした街を歩けば、相変わらずレコードや貴重な本を買い漁る人々。カフェでひたすら時間を過ごす人、排気ガス充満の街をウォーキングする人、ホントに山形に来る前の馴染みの光景が広がっていました。

僕が将来的に実家に帰り、都会で過ごしても、正月に見たこの光景の一部になるのは確かです。これが果たして充実した人生といえるかどうか不明です。楽しんで暮らすというのは、難しいものです。

この新聞のいいところは、月に一度、個人的な意見を公の場で発表することです。その理由の一つは、日々、様々な経験をすることで人は変わっていくことを知れるからです。過去の新聞を読んでは自分の意見を客観的に見て笑ってます。中には、しょうもない文もありますが、しょうがない人間だもの。

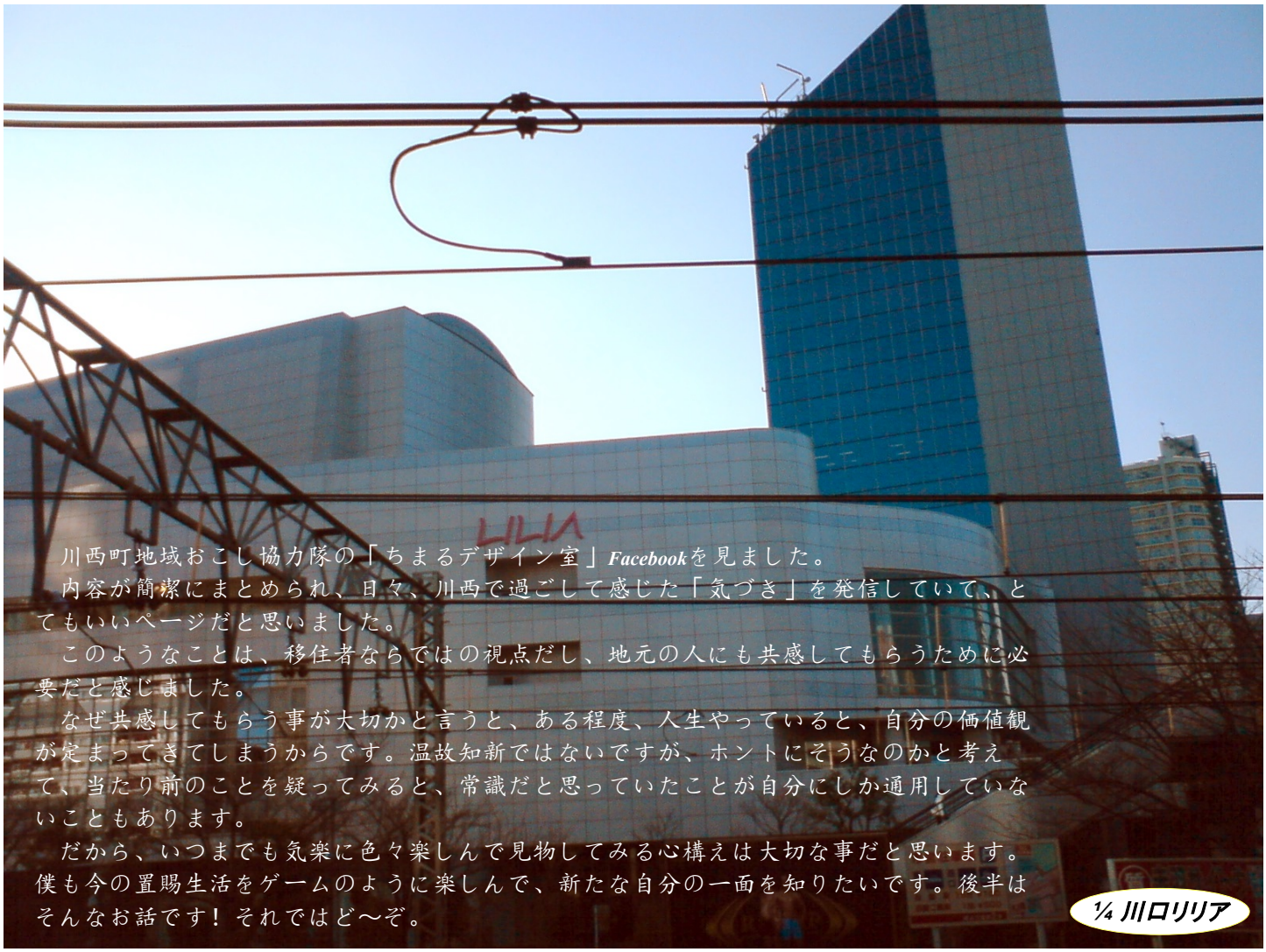
このように自分のことをツラツラ書けるのは、子供のときからの気質です。幼少期のころは子供らしい素直な（？）子供だったはずなのですが、小学校の半ばくらいから、先生や友達など、気づけばよくわからいことばかり。「やってもいないことをなぜ謝るのか？」「みんなそうしてるからそうしろ」とか、とにかく集団でいると納得できない事が多く、誰も説明してくれないのです。

そして、小学校も高学年になると女子というのはグループに分かれて派閥争いがはじまり、仲の悪いグループと仲良くしようものならイジメが発生するのです。もちろん男は、この争いに参加しなくていいのですが、好きな男と仲良くなれるものなら、友達すら利用するのが、この女子派閥の悪女なところ。僕は当時から「めんどくさ～」と思ってました。

ある日、いつも一緒に下校していた女の子が、そのグループから「はぶられ」ようとしているときに、僕もその子を無視するように頼まれましたが、その忠告を無視（笑）して、その子に全部話してあげました。ホントくだらないですからね。「仲良く下校しましょう」と教室に張り紙してるくせに偽善者とはこのことです。ちなみに、そのいじめっ子女子からラブレターもらいましたが、こんな悪女と付き合ったら悪男にされるなと本能で感じました。「好き好き」パワーの効果はおそらく2週間程度でしょう。合掌。

さて、前半は31のいい年こいた男が、小学校時代の思い出を赤裸々に語るという病的な一面が目立ちました。何も今流行の中二病ではありません。理由があるのです。

先日、米沢の六郷地区で開催された「さいと焼き」通称ヤハハエロに参加しました。ラジオの音声を収録するために。無事に「ヤハハエロ～」のかけ声も上手く収録でき、小学生の「もち焼き」がはじまったので、記念に録音しておこうと思い「おさいと」にマイクを向けたところ、よからぬ会話が聞こえてきたのです・・・・（つづく）



川西町地域おこし協力隊の「ちまるデザイン室」*Facebook*を見ました。
内容が簡潔にまとめられ、日々、川西で過ごして感じた「気づき」を発信していて、とてもいいページだと思いました。
このようなことは、移住者ならではの視点だし、地元の人にも共感してもらうために必要だと感じました。
なぜ共感してもらう事が大切かと言うと、ある程度、人生やっていると、自分の価値観が定まってきてしまうからです。温故知新ではないですが、ホントにそうなのかと考えて、当たり前のことを疑ってみると、常識だと思っていたことが自分にしか通用していないこともあります。
だから、いつまでも気楽に色々楽しんで見物してみる心構えは大切な事だと思います。僕も今の置賜生活をゲームのように楽しんで、新たな自分の一面を知りたいです。後半はそんなお話です！それではど～ぞ。

¼ 川口リリア

「ねえねえ、こないだ何回キスしたと思う？」「5回だよ、5回」「もうほんとチューしまくり」・・・。ヤハハエロにこんな台詞あったっけ？と思いイヤホンを外して声の主を確認したら、ほっぺの赤い、あどけない小学生の女の子だったのです！
いまどきの小学生はハンパないな、初々しい大学生みたいだなと思いながら、よく会話を聞いていると（盗聴ではない！）どうやら、テレビの話だったようです。あ～よかった、おじさん安心した。
しかし、このくらいの女の子が確実に男と女を意識し始めている事は確かであります。仮にそうだとして、お相手の男の小学生を見てみると、「さいと焼き」で焼いたイカを食べて母親に自慢していたり、雪山を滑って遊んでいたり、なんとも子供らしい子供なのです。基本、いつの時代も女の子はませているのです。
懐かしいかな、僕が小学1年生のころ。朝は通学班で一列になって登校という奇習がありました。先頭は6年生、2番目は僕です。その先頭のお姉さんが、これまた主婦みたいな人でした（笑）6歳離れていればそうかもしれませんが。「くしゃみをする時は手で押さえないといけない、前の人に迷惑だから」「傘を持つときは肩にかけるようにして持たなくてはいけない、前の人に雨がかかるから」「帽子を深くかぶってはいけない、前の人にぶつかるから」などなど、朝っぱらから言われるのです。しかし、次の日、言われた事を守ると「よくできたね、えらいね～」とほめて、頭ナデナデして甘やかすのです。まさにアメとムチ作戦。この定番といえるメソッドにより教育され、基本、僕は女性に従順な男になったのです。少し反抗しても、完璧な理屈で論破されるので、女性に歯向かうのは無駄と言う事も学びました。今思えば、親切な人でした。現在はいい母親になっていることでしょう。よく考えてみれば、「前の人」って自分の事だから、自分が嫌なだけだったのではと思うこともありますが。まっ、いいや。
このように（どのように？）当時、純粋に思ったこと、印象的なことは、いつまでも覚えているものです。そして、そのような経験が今に続いているのです。よくある話で、社会人1年目で久しぶりに飲み会をすると、社会とは、世の中とはこういうもんだと言う輩が、いつの時代にもいます。でも、きっと彼らは小学生のころは聞き分けのいい子供だったはずです。みんなで行動して、集団生活ができる適応能力を持っているのです。しかし、不運にもそうではないと感じてしまった僕のようなタイプは、何十年たっても小学生のころの思い出を公に語り、車が凍って会社に遅刻するようなタイプになります。でも、それは僕なりに毎日、過去の教訓を活かして生きている証拠なのです。
正月の帰省でこんなことがありました。約3年ぶりに親戚と話したら「一人、山形に行って、地元の人と社交的に人付き合いをするとは思ってもみなかった」と言われました。なぜかと言うと、山形に来る前の25、6歳の時、将来の希望とか何の仕事をしたいとか、考えすぎて泥沼にはまり、フラフラ街を徘徊していたわけですが、同じ、正月の席で「将来、何になりたいんだ？」と親戚に問い詰められ、こっちはホントに悩んでるのに正月のネタにされてるなあと感じたり、親でもないのに言われるのもしゃくで「犬になりたい」と答えていたのです（笑）簡単に言えば脱人間宣言です。この超なめきった態度にニーチェだの哲学者の名前を出して、諭してくるのですが、僕も伊達にふらついて学生長くやっていたわけではないので哲学書とか結構読んでいて、やたら理屈っぽいのです。インテリ気取ろうが、どうであれ、自立できていない自分に心底情けなかったので、この話題にズケズケ踏み込まれると話し合う気すらなくなっていたのです。
そんな人間が、数年後、自ら地域活性化という社交性がなければ何も出来ない分野に飛び込み、自分でギター教室だ！と言い人集めするんですから人間変わるものです。やっぱり絶対だと思っていた「自分らしさ」も環境が変われば変わるのです。経験がモノを言うんですね。思いおこせば、31年の人生で、僕のために色々とよくしてくれた人たちがたくさんいます。場所も男女も問わず。その当時、真剣に自分に向き合って共感してくれた人々、見捨てずに何かを期待してくれた事に感謝をこめて。

*新年早々自己完結型感動済　**2015**年**1**月　記*